

「学力向上に向けた学校の取組」

学校名	岩沼市立岩沼中学校
校長名	小野寺 孝芳

1 学校課題

本校の平均正答率について、国語ではA・Bともに全国平均を上回った。Bでは県平均を回った。数学ではA・Bとも全国・県平均を下回った。

国語Aでは、「読む能力」の領域で、「書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直す」設問が全国平均を、「文章の表現の特徴を捉える」「目的に応じて必要な情報を読み取る」設問が県平均を下回った。また「言語についての知識・理解・技能」の領域で、「文脈の中で敬語を適切に使う」設問が県平均を、「修飾語と被修飾語の照応について理解する」「比喻を用いた表現について理解する」設問が全国平均を下回った。意欲・関心・態度については、全国・県平均を下回った。文章表現による解答が必要な設問の無回答率が高い。

数学Aでは、「図形」の領域で、球の体積、平行四辺形の性質、証明の意味についての知識が不十分であった。また、関数の領域では、表とグラフの関係についての理解が不十分であった。数学Bでは、「数と式」の領域と、「資料の整理」の領域で、全国平均より正答率の低い設問が見られた。特に「数と式」の領域では、事象を文字式と関連づけて考えることを苦手としている生徒が多いと考える。生徒質問紙では、記述式の問題を解こうと努力した生徒の割合は、全国平均を下回った。言葉や式を使って説明しなければならない問題を解くことについて、苦手としている生徒が多いと考える。

2 学校課題の改善に向けた取組

国語について、「読む能力」向上のため、授業の中で図書館を積極的に活用し、調べ・まとめる作業を多く取り入れる。また、本校で実践中の朝読書についても継続して行う。「言語についての知識・理解・技能」については、今後も授業中に辞書を効果的に活用し、辞書的な意味から派生させ、文脈の中で意味の押さえができるようにする。文法事項や、敬語・比喻などの表現方法の定着のために、定期的に復習を取り入れる。文章表現による解答が必要な設問の無回答率を下げるために、今後も100字から200字前後で文章の内容や自分の考えをまとめる学習を継続する。書くことが苦手な生徒が、意欲的に取り組めるように課題の設定も工夫する。

数学について、授業では、教師による効果的な机間指導及びグループ学習の中での教え合いをさらに活性化し、個別への支援を充実させる。また、問題演習の時間を多く取り入れることにより、反復練習を通し基礎・基本の定着を図る。

本校で実践している家庭学習の習慣化のための取り組みである、「マイラーニング（国語・数学・英語の小テスト→各教科年間7回、計21回）および、それに伴う家庭学習課題の提出」を今後も継続させ、今後も学力の向上を目指す。

3 現状と目標

ア 授業の内容が分かる児童生徒の割合	教科	現状	目標
①	国語	74.6%	80.0%
②	算数・数学	77.2%	80.0%

イ 家庭学習の時間		現状	目標
① 平日	(小学校第6学年：1時間以上、中学校第3学年：2時間以上)	28.8%	35.0%
② 休日	(小学校第6学年：2時間以上、中学校第3学年：3時間以上)	14.4%	20.0%